三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

本能まちづくりニュース

第５５号　平成２２年8月１０日発行

本能まちづくり委員会
委員長　杉下浩教

E-mail:　post@honnoh.net
URL　　http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。

祇園祭の中の本能学区

今年の祇園祭、7月前半は雨に悩まされましたが、巡行の日は梅雨明け晴天。後半はこれぞ京都の夏！という猛暑の中で、無事終了しました。

私達は今までの本能ものしり講座で、八坂神社 権禰宜 五島健児氏に祇園祭の歴史と意味（関連記事本能まちづくりニュース 37 号）、(財)祇園祭山鉾連合会理事長深見茂氏に山鉾連合会の歩みなど（同 45 号）のお話を聞いてきました。この度、深見氏の理事長引退、また、本能学区山田町の祇園さんの末社（同 39・46 号）撤去が京都新聞で報じられており、名残惜しいですが、祇園祭の伝統を支える力は受け継がれてきています。本能学区の山鉾はユーモラスな蟷螂のカラクリで人気の蟷螂山だけですが、本能学区の皆さんが見物客としてだけでなく、どんなところで祇園祭に関わっておられるか紹介しましょう。

毎年 6 月に入ると町内では、祇園祭協賛会より祇園祭絵はがきと一筆箋の販売があります。「今年も祇園祭の夏がやってきた」という気分をもたらしてくれます。売り上げ純益は山鉾巡行補助金の一部に当てられるそうです。今年の絵は岡村倫行画伯の献筆による鯉山でした。

八坂神社の氏子地域の 25 学区で「八坂神社清々講社」という組織が構成され、祇園祭を取り仕切っています。祇園祭助成の寄付を各学区から集める役目もあり、本能学区でも有志の方々が特別協賛金を寄付しておられます。清々講社メンバーは各学区から 2～3 名で、70 名ほど。10 名が幹事となり、くじ取り式・神輿洗い・稚児社参・くじ改め・神幸祭・花傘巡行・還幸祭・夏越祭まで、祇園祭一連の主要な神事に参列されます。本能学区の清々講社社長は本能まちづくり委員会前委員長西嶋直和さん(藤西町)で、清々講社幹事を務められています。

蟷螂山

7 月 1 日、吉符入り。各山鉾町では祭りの打ち合わせが行われます。2 日、市役所会議場でくじ取り式。本能学区の蟷螂山は浅島浩太さんが前山十番をひかれ、六油町の池山康之さんは、お住まいの太子山町町会長として太子山の前山五番をひかれ、お二人は巡行当日にくじ改めの正使も務められました。

長刀鉾、函谷鉾、鶏鉾、月鉾、放下鉾、船鉾、岩戸山、南観音山、北観音山、などの囃子方に学区の男性・男子（小学生から大人まで）が参加しておられます。普段は月 1 回、7 月 17 日の巡行が近づくにつれて増える練習会に通い、本番に備えます。夕方浴衣で練習場に向われる姿や、新町・室町界隈の練習会所から流れる祇園囃子に祭り情緒が高まって来ます。放下鉾囃子方の責任者は空也町の永井崇博さんです。14 日から宵山の粽売りに学区の女の子達が参加。可愛い売り声が聞かれます。夜店で賑わう中を送迎の保護者も大忙しです。本能消防分団は蟷螂山中心に警備。高倉小･御池中 PTA は明倫芸術センター前を拠点にパトロール。今年は連日の雨で、夜店も見物の人々も皆さん大変でした。

好天に恵まれた今年の山鉾巡行。本能学区にゆかりのある人達が長時間練り歩きました

（右）太子山の池山康之さん
（中）蟷螂山の若い「かき手」
（左）蟷螂山の正使・浅島浩太さんと副使・森雅章さん
＝七月十七日、四条通にて

17 日は好天。夏本番の暑さの中、いよいよ巡行です。今回は、蟷螂山町から本能自治連合会に山の舁き手の応援要請があり、平野雅左夫会長からまちづくり委員会に声がかかり、若くて力のある乾ゼミの学生さん二人が参加することになりました。その学生さんの感想です。

７月 17 日の祇園祭巡行に蟷螂山の「舁(か)き手」として参加させてもらいました。当日心配された天気は問題なく、日差しが痛いほどの暑さでした。そんな中、蟷螂山町の方々や長尾谷高校の高校生達とともに、蟷螂山町を出発し、四条通、河原町通、御池通、新町通を通り、蟷螂山町に戻ってくるというコースを、「山」とともに歩き通しました。

蟷螂山は屋根の上のかまきりが動くことで有名で、動くと観衆からは大きな声援と拍手が巻き起こりました。脇奉行の巧みな観衆への拍手の誘い方もあって、蟷螂山の周りは常に盛り上がっていました。四条通や、河原町通の真ん中を堂々と歩くことができ、かまきりに向けられた声援も、自分に向けられたもののような気がして、とても気持ち良かったです。

蟷螂山町の人たちは、僕たちを温かく迎え入れてくれ、町の一員として蟷螂山の巡行に参加することができました。それはまちづくり委員会に参加し、まちに馴染もうとしている僕たちにとって非常に嬉しいことでした。また、今まであまり知らなかった祇園祭に参加することで祭のことや地域についての知識が身に付き、興味も湧きました。今回、祇園祭に参加させてもらえたことは、本能学区に通っていなければ、絶対に出来なかった経験だと思います。このような機会を与えて頂いた本能の方々、蟷螂山町の方々に心から感謝いたします。

（立命館大学３回生　岡田裕央、土谷優太）

先の山鉾巡行から 1 週間、連日 37 度を越す猛暑の最中、24 日午前中は花傘巡行です。中村麻子さんにレポートしていただきます。

７月 24 日の祇園祭花傘巡行は、昭和 41 年に山鉾巡行が７月 17 日に統合されたために、後祭を補う行事として開催されるようになったものです。八坂神社清々講社・八坂神社婦人会などからなる祇園花傘連合会の巡行には「明倫・本能子供みこし会」など氏子学区の子供みこしも８基ほど参列します。子供みこしは、本能陸上クラブのコーチが中心となり学区からのボランティアともどもお世話をします。小学校統合により「高倉小学校」「御所南小学校」の児童へ呼びかけて例年本能学区の小学生のみならず、多数の児童が子供みこしに参加しています。児童をとりまとめ安全に気を配り、声を張り上げ子供を鼓舞し、ばてないように氷や水をかけたりと巡行の日は朝から大忙しです。また巡行当日までの準備、当日の高倉小学校・ランチルームでのお昼のお世話など後方支援もあり、無事に子供たちが解散できるまで気を張り詰めどおしです。

午前 10 時に八坂神社石段下を出発し、四条通を西へ河原町通りを北へ上がって行きます。河原町六角でのお茶の休憩までがアスファルトの照り返しがきつく、しんどいところです。皆顔を真っ赤にしてみこしを担ぎました。また今年は神饌行列や幌武者に立命館大学乾ゼミの学生も参加しました。（乾ゼミ生は夏祭りや体育祭、春・秋ののれんスタンプラリーなどで活躍中）幌武者に扮した土谷君は「とにかく(衣装が)重たいんです。そして暑い！けど沿道の人に声をかけてもらったり、幌の説明をしたりしているととても気持ちがよかったです。参列させてもらえてよかったです」と笑顔の感想。巡行に参加した児童や学生は身をもって歴史を体験できたことでしょう。このような伝統の継承に多くの学区の方々がかかわっておられることを改めて認識した一日でした。（あ）

花傘巡行を支える氏子の団体のひとつに「八坂神社清風会」があり、会長はまちづくり委員会委員坪内三郎(三文字町)さんで、「神饌行列」を担当されています。今年「緋袴と着物」を装う女子と「幌武者」に扮する男子を募集され、まちづくり委員会の最若手乾ゼミ生が、巫女 2 人・着物 3 人・幌武者 2 人で、奉仕しました。

子供みこし

緋袴と着物の女子

幌武者の男子

この日夕方からは、三基の御神輿がお旅所から八坂神社に帰られる還幸祭です。三条通ののれん里親さんのお宅には本能古代色のれんが吊るされて彩りをそえ、三条油小路角の木村庄ガレージではお接待の準備が整えられて御神輿を待ちます。夕方 5 時前後に雷雨。行列の皆さんはずぶぬれになられたにもかかわらず、時間通りに三条通を通られました。素戔嗚尊を祭る中御座（三若神輿会）に、清々講社の西嶋さんと木村孝次さんが袴でお供。三若神輿会の輿丁（担ぎ手）は 500 名ほどで、10 数キロの道のりを交替で担いでおられるそうです。三若神輿会の中の祇藤班の頭領が本能消防団分団長源田眞一さん(六油町)。輿丁に本能まちづくり委員会委員長杉下浩教さん(三油町)達若手が三人おられます。西嶋さんは「八坂さんまでお供して、最終は午前 2 時頃になる」とおっしゃっていました。

今年も三条通では、三条通を考えよう会の方々がイベントを組まれました。14 日から 16 日まで、三条新町角のガレージで行灯作り。3 日間とも断続的な雨に見舞われましたが、小さなテントで頑張られました。参加者共々雨にめげずに 120 個完成。三角錐型と円筒型の 2 種類が三条通脇をほんのりと照らしていました。また、京町家連携キャンパスでは、のぞきカラクリ展。合成写真を数枚、奥を見通せるように情景をくりぬき、距離を計算して箱に並べてあります。小さな穴から覗き込むと 3D メガネで見るような遠近感立体感をもって、三条通が見えました。2010 年に撮られた写真なのですが、なぜか、ほっとするような懐かしさを覚えました。立命館大学映像学部岡田翔君の作品です。改修済んだ京町家キャンパスに多くの方が来られました。

皆さん、力を出し切られ、お疲れ様でした。（N村）

古代遺跡に想いを馳せて　第９回 本能ものしり講座

2010 年 5 月 25 日、本能自治会館にて第９回本能ものしり講座が開催されました。

今回のテーマは「これであなたも考古学者～世界の遺跡と博物館に隠された謎に迫る」。京都府立京都文化博物館主任学芸員である南博史先生にエジプト、中国、新大陸の貴重な古代遺跡の写真をみながら、考古学という学問や遺跡を通して日頃南先生が考えておられることなど、興味深いお話をうかがいました。

古代文明に興味を持ち、古代遺跡や世界遺産を巡りながら学び続けて既に 35 年を経て、今もなお調査の現場に関わる活動を続けておられる南先生によれば、考古学とはどんな学問なのかを理解してもらうためにこれだけは覚えておいてほしいポイントが３つあるとのことで、まずはその解説からはじまりました。＜その１＞は学問の目的。考古学とは、過去の人類の社会や文化を遺跡・遺物を使って復元する学問であること。＜その２＞は用語の意味。遺跡とは、かつて人々が生活した範囲。遺構とは、人々が生活した痕跡で地上から切り離せないもの（例えば住居跡など）。それに対して遺物とは、人々が生活した痕跡で地上から切り離せるもの（例えば土器や石器）。＜その３＞遺跡が地中に埋まっているのは土が遺跡の上に順次堆積するからで、これを地層累重の法則という。また古いモノの年代を決める方法には「型式学」を用いて基準になる型より新しいか古いかを判定する相対年代と、遺物に含まれる C14（炭素）の量を測定して年代を判定する絶対年代がある。

こうして、考古学の謎に迫るための予備知識をわかりやすく説明していただいた上で、いよいよ本論です。南先生は、考古学（過去）を通して現在と未来が見えてくるとして、主に中南米の遺跡を紹介しながら、①自然との関わり②価値の多様性（世の中には色んな文化があるが、それをどのようにとらえるかはその人次第である。）③人間や文化の異質性と同質性④伝統文化、生活文化の再発見、という４つの視点で、考古学という学問に取り組みながら見えてきたご自分の考えを話されました。

多くの画像をもとにたくさん興味深いことを話していただいたので、ここではそのすべてを紹介することは出来ませんが、私が一番印象に残っているのは、②価値の多様性の例として紹介された、オルメカ文明の遺跡で子どもが生け贄にされたことを示す画像でした。その事実自体とてもショッキングなことでしたが、より深く印象に残っているのは、南先生が「この写真に対して、現代に生きる私達は、残酷、酷い、恐ろしいと感じるかもしれませんが、オルメカ人には、ある選ばれた子供が神と交信できるという信仰があり、この生け贄も、子供（赤ん坊）に神聖を認めるからこその行為なのです。」と語られたことです。時代や場所によって人の価値観は多様なのだから、

昔のことや他地域のことを、今の自分たちの価値観だけで判断してはならないということがよくわかりました。その一方で南先生は、龍やジャガーなど強い者を神格化し信仰する習慣が世界各地にあるという事実や、メソポタミアの土器と日本の縄文土器が個別に発生したにも関わらず似たような文様をもつという不思議さに触れながら、人間の行為や発想には地域や時代を越えた同質性もある、とも語られました。

南先生は、今のご自身の興味関心としては「人類文化の同質性」に惹かれており、古代の人たちの営みのなかに人類として共通する価値観を発見し、研究することが現在のテーマだと語っておられました。

先生の話を聞きながら、考古学は単に「昔のことを調べる」学問ではなく、今を生きる私たちに、価値の多様性を認め合いながら、お互いに共通する価値観を見つけ出していくことの大切さを教えてくれる学問なのだということを、実感しました。

今回のものしり講座に参加された方々の年齢層は幅広く、子どもから年配の方まで考古学に興味のある方が多数来られていました。そのため先生が話す一つ一つの内容に度々歓声があがるほど興味津々で、講演後の質疑応答ではたくさんの質問が飛び交い、参加者全員が時間を忘れるほど夢中になっておられました。また、まだまだお話を聞きたいという参加者の感想から、再講演を期待したいなと思いました。

（立命館大学３回生　山田奈穂）

お知らせ

◆ 第 10 回 記念講演「本能ものしり講座」◆

10 月 29 日（金）午後 7 時 30 分　本能館 本能ホール（油小路蛸薬師下る）

講師　市田ひろみ先生

平成 18 年 6 月から始まった「本能ものしり講座」は、京都や本能学区に関わりのある講師をお招きし、第 1 回から 9 回まで生活・文化や歴史の話題など地域密着型の講座を開催してきました。

記念すべき第 10 回は、今や京都の顔としてテレビでもお馴染み、服飾評論家でエッセイストの市田ひろみ先生を講師としてお迎えします。市田先生は重役秘書、女優、美容師などを経て、現在は日本和装師会会長を努められています。また京都市観光協会副会長、全日本きもの振興会理事など数々の要職をお持ちで、海外文化交流も 100 都市以上に及び、更に書家としても活躍されています。

そんな多才でエネルギッシュな市田ひろみ先生からどんなお話を伺うことができるでしょうか？　皆さん、お誘い合わせの上、是非ご来場ください。　詳しくはポスター、回覧でお知らせいたします。（ゆ）

地域のみなさんと『本能の染めと職人さん図鑑』を作ります

大学コンソーシアム京都主催　学まちコラボ

私たち乾ゼミ３回生とまちづくり委員会が本年度に取り組む「『本能の染めと職人さん図鑑』作成とその活用」企画が、大学コンソーシアム京都主催の「大学地域連携モデル創造支援事業（通称：学まちコラボ）」に選ばれ、助成金を獲得しました。

この事業は、京都市との協働で行われており、大学と地域が一体となったまちづくりや地域の活性化を目的とする企画を募集し、「おもしろそうなもの・地域と学生がちゃんと連携しているもの」を選んで助成を行うというものです。まちづくり委員会と私たち学生の関係にぴったりの事業なので、2007 年にも、まちづくり委員会＋京都府立大＋乾ゼミで「本能のまちに咲くのれんの華」企画を申請し、その助成をうけ、高倉小や御池中の子どもたちの参加で新色「伝統色のれん」を作成しています。

私たちの企画である「『本能の染めと職人さん図鑑』作成とその活用」は、本能の「染め」という地域特性を通じて、地域の人や子どもたちに染めの魅力やおもしろさを伝えるために、『本能の染めと職人さん図鑑』を作成するというものです。この図鑑では、京染めの工程をわかりやすく説明するだけでなく、染めという伝統産業を担いつつ、このまちで暮らしている「職人さん」という「人」に着目します。高倉小学校のスマイル 21 プラン委員会の協力のもと、高倉小学校から子ども記者を募り、学生と一緒に職人さんのもとを訪れ、その職人さんの仕事内容や、地域での働き方や暮らし方、地域とのつながりや地域への想いなどを取材し、職人さんの世界のおもしろさ奥深さ、身近さを感じてもらえるよう、本能の染めと職人さんの世界を冊子にまとめ紹介します。

６月 19 日の二次選考公開プレゼンテーションを通過し、７月３日、京都市役所での認定式では、京都市長・門川大作氏から認定書とともに「期待している」との言葉をいただき、とても身が引き締まる思いでした。

『本能の染めと職人さん図鑑』の取り組みはこれからが本番。夏休み明けには、子ども記者さんの募集や職人さんカルタづくりワークショップへの参加呼びかけを行うつもりです。まちづくり委員会メンバーや職人さんたち、子供たちや保護者の方々、など、地域のみなさんと力をあわせて、すてきな図鑑を作るためにがんばります。来年の初めにはみなさん方のお手元にお届けできると思います。来年３月の「おいでやす染めのまち本能」では、図鑑を使っての「職人さんめぐり（仮称）」も行いたいと考えています。お楽しみにっ！！

（立命館大学３回生　村上加保里）

追悼　高岡由充さん　京友禅絵師

公開工房で毎回お世話になっている越後町の高岡由充さんが 6 月 29 日に亡くなられました（享年 64 歳）。余りにも突然の知らせで耳を疑うばかりでした。公開工房の開催当初から毎回、ご協力いただき、高岡さんの繊細で、且つ、大胆な下絵は公開工房の見学者の目を釘付けにしてくれました。町家の自宅兼作業場の机の上に白い反物を置いて、青花を含ませた筆を縦横無尽に走らせる高岡さんの姿は永遠に私たちの瞳の中に焼きつき、決して忘れることはないでしょう。高岡さん、本当にありがとうございました…そして、お疲れさまでした…。

去年の 7 月に京都府京都文化博物館が開催した「ぶんぱく子ども教室」で高岡さんは講師として京都御池中学の生徒さんたちに京扇子の扇面に描く絵の指導をされました。この事業は京都文化博物館が地域の方々と連携した学習普及活動として開催されているものです。今回は「友禅染め　京扇子づくり」というタイトルで、京の伝統産業であり、文化博物館の周辺地域の産業である「友禅染め」と「京扇子」に関わる職人さんたちに直接指導していただき、自分自身のオリジナルの京扇子を作り上げる体験をしてもらうものです。本能学区からは本能まちづくり委員会前委員長で染色補正伝統工芸士の西嶋直和さんとのお二人が講師として招かれて①「京友禅の歴史と概要」②「友禅技法によって扇面に自由に絵を描く」という講義を担当され、生徒たちに講演と指導をされました。そのときの感想を高岡さんが遺されていますのでご紹介させていただきます。　（委員長 杉下浩教）

御池中学校の生徒達の非常に礼儀正しい事と先生の教育の行き届いた活動が眼に焼きつきました。最初は少しこちらも生徒達も緊張と不安で心配していましたが、徐々におのおの自分流に限られた紙の空間にそれぞれの思いで作品づくりができたこと、新ためて感動しています。

上手に作ろうと思っても実際にはそのように行かないことが多いのですが、できあがった扇子を見せてもらった感想はそれぞれの思いがストレートに表現できて素晴らしいと思いました。

絵具の顔彩の少しの色数でも、色々な色合いができるのも不思議で、また面白かったのではと思います。それに平面に描く絵も、扇子の折の部分が山や谷になり、少し縮んだように見えることも計算しておく必要があることも発見できました。扇子づくりでは、実際に体験した中骨を扇面の穴に入れる作業もなかなか緊張する作業だったかもしれません。扇子づくりは分業でそれぞれ専門分野に別れていますが、手作業でやってのける職人さんの努力も体験できました。

中学生の皆さんにとって、随分と難しい所はそれぞれあったようですが、苦闘しながらも完成させて初めてその面白さを体験してもらえたかなと思います。

『平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業　友禅染め京扇子づくり』
編集：京都文化博物館ぶんぱく子ども教室
発行：京都文化博物館　　発行日：平成 22 年 3 月 15 日　より転載